

場所 滋賀県米原市

面積 0.7ha

活動目的 琵琶湖や伊吹山などの豊かな自然に囲まれた地で、それらをつなぐ生態系ネットワークの形成に寄与する緑地や水辺を提供し、地域全体の生物多様性保全に貢献する。

サイト概要

- 滋賀県米原市に位置するサカタインクス滋賀工場内の緑地。
- 周辺地域に存在する植生群落を配慮し、アベマキやコナラ、ヤマザクラなどの広葉樹を植栽している。また、周囲の景観との調和を目的にハナミズキやヒラドツツジなどの低木も植栽している。
- サイト内では、環境省レッドリストに選定されているケリ（鳥類）や滋賀県レッドデータブックに選定されているセッカ（鳥類）、ニホンアカガエル（両生類）、ナツアカネ（昆虫類）等が確認された。



土地利用の 変遷

1998年当時は田畑等の農地であったが、2005年に滋賀県経済振興特区に認定され、2009年に米原南工業団地としての造成が完了。その後企業誘致が行われ、2012年に土地を購入。2014年に滋賀工場竣工に至った。工場建設に際し、敷地内へ周囲の貴重なみどりを活かしつつ、周囲の環境に合わせたみどりを植えることにより周囲の景観との調和を図った緑地（サカタの森）を造成。

サイト周辺の 環境

申請サイトは、琵琶湖から東に約2km、伊吹山から南西に約14kmに位置しており、周辺には水田が広がっている。近傍を流れる一級河川・矢倉川は彦根市東部の山中に発し琵琶湖東部に注ぐ。

アピール ポイント

「馴染みのある風景の創出」をコンセプトとしている。
植栽種は概ね現地周辺の山林に見られる樹種で構成し、伊吹山の植生を特徴づける種類としてシモツケやハシドイも含むなど、地域植生を考慮している。

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

在来種を中心とした多様な動植物の生育・生息が確認され、地域性をもつ健全な生態系が成立している。また、敷地内の緑地間や周辺地域の自然環境との生物ネットワークの存在も示唆され、地域らしい景観を形成するとともに、在来の鳥類や昆虫による送粉や種子散布などの生態系サービスが提供されていると推定される。また、メジロはチョウ類の幼虫やマグワの果実を林内へ何度も運び込む様子が確認されたことから、サカタの森で営巣していると考えられる。

【主な植生】

主に里山林の樹種であるアベマキやコナラ、ヤマザクラの他、その構成種であるガマズミ、ヤマボウシ、モチツツジ、アカマツなど、常緑樹林の樹種であるシラカシ、ツブラジイ（あるいはスタジイ）など、伊吹山を特徴づける樹種としてシモツケやハシドイが確認された。草地では、エノキの芽生えやススキ、チガヤなどの在来の草本類も確認された。

【確認された主な動植物など】

- 哺乳類： キツネ（学名：Vulpes vulpes japonica）
 鳥類： ヒヨドリ（学名：Hypsipetes amaurotis）
 メジロ（学名：Zosterops japonicus）
 両生類： ニホンアカガエル（学名：Rana japonica）
 昆虫類： ハグロトンボ（学名：Atrocalopteryx atrata）
 ヒメウラナミジャノメ（学名：Ypthima argus argus）
 コクワガタ（学名：Dorcus rectus rectus）
 シロテンハナムグリ（学名：Protaetia orientalis submarumorea）
 カナブン（学名：Pseudotorynorhina japonica）



写真の説明：チョウ類の幼虫をくわえたメジロ



写真の説明：シモツケ（地域植生を考慮した植栽種）

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

植栽後約10年が経過したサカタの森では、造成後の植栽由来ではあるが地域性のある在来種で構成される里山林的な樹林環境が成立しつつある。希少種を含む多種多様な動植物種が、サカタの森や、同じく工場敷地内にある調整池を成体（成虫）の生息場所や繁殖場所として利用していると考えられる。

【確認された希少種】

2023年7月に実施した調査において、以下の通り、希少種が確認されている。

● 植物種

カワヂシャ（学名：Veronica undulata、環境省レッドリスト2020 準絶滅危惧）



写真説明：カワヂシャ（環境省RL 準絶滅危惧）

生物多様性の価値

価値（8）越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、動物の生活史にとって重要な場

【場の概況】

サカタの森は、周辺地域の自然環境と往来していると考えられる地域の動物の休息場所や採食場所、ねぐら、移動経路として利用されていると考えられる。羽化直後のトンボ類の成虫も確認されており、これらの昆虫は周辺地域の樹林や水田、矢倉川などから採餌や休息のためにサカタの森に飛来したものと考えられる。

【対象となる動物種とその動物種の生活史の内容】

【対象となる動物種】

哺乳類：キツネ（学名：Vulpes vulpes japonica）
両生類：ニホンアカガエル（学名：Rana japonica）
昆虫類：ハグロトンボ（学名：Atrocalopteryx atrata）
 ナツアカネ（学名：Sympetrum darwinianum）
 コクワガタ（学名：Dorcus rectus rectus） など

【動物が利用している生活史】

休息、採食、ねぐら、移動経路



写真説明：動物の巣穴と思われる穴（ねぐらとして利用）



写真説明：ナツアカネ（滋賀県RDB その他重要種）

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
<ul style="list-style-type: none"> ●従業員による定期的な巡回を行う。(月に1回程度) ●造園業者による樹木のチェックと森林の林床を維持するための下草刈りを実施する。(年に3回程度) また、必要に応じて樹木維持のための肥料の散布、防虫剤の散布を実施する。 ●森林育成のため、必要に応じて間伐や枯死した樹木の処理、植樹を行う。 ●周辺地域に生息していると考えられるシジュウカラなど、樹洞に営巣する小鳥の繁殖場所として巣箱を設置する。 ●林縁部に群生する滋賀県指定外来種ワルナスビには棘があり、従業員がけがをする可能性があるため伐根による駆除を行う。 ●都度、状況に応じた管理を実施する。 	<p>【モニタリング対象】</p> <p>①植物(カワチシャ等)、鳥類(ケリ、セッカ等)、昆虫類(ナツアカネ等)、両生類(ニホンアカガエル等)など、希少種を含む全動植物 ②希少種ニホンアカガエル ③潜在自然植生の構成種であるエノキ</p> <p>【モニタリング場所】</p> <p>①サカタの森 ②サカタの森(西側飛び地部分) 付近の調整池 ③サカタの森</p> <p>【モニタリング手法】</p> <p>①任意踏査、任意採取による生態系調査 ②卵塊数の計測 ③マーキングによる個体の保護、樹高や幹回りの計測</p> <p>【モニタリングの実施時期及び頻度】</p> <p>①実施時期：春季、夏季、秋季、冬季 頻度：各季とも3年に一度 ②実施時期：早春季(2～3月頃) 頻度：毎年 ③実施時期：下草刈り実施時 頻度：年3回程度</p> <p>【モニタリング実施体制】</p> <p>①専門業者による生態系調査を継続して実施する。 ②③当社従業員による計測を実施する。 個別モニタリングの対象や実施方法は、①の生態系調査結果を踏まえて都度検討・追加する。</p>